

花きの県別生産出荷概況(4月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	4月出荷見込み 千本		主産地	4月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
アルストロメリア	山形県	9.6 (95%)	アバランジェ エベレスト ピンクサブライズ プリマドンナ レベッカ、レモン 他	990 (90%)	490 (90%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	30	35	35
トルコギキョウ	群馬県	7.2 (90%)	ボレロホワイト キングオブスノー リネーションピンク ピコティー	60 (95%)	55 (95%)	邑楽館林 甘楽富岡	20	30	50
	茨城県	10 (100%)	レイナホワイト クラリスピンク ロジーナラベンダー 他	320	255	筑西市 常陸大宮市 他	15	35	50
	大分県	6 (100%)	レイナホワイト Mioシリーズ 他	150 (92%)	100 (100%)	国東 臼杵 大分 高田 杵筑	30	30	40
	宮崎県	2.6 (104%)	ボレロホワイト ダイヤモンドピーチ サルサマリ	90 (137%)	- -	宮崎中央 日向	43	23	33
バラ	群馬県	15.2 (100%)	アヴァランチェ サムライ 他多数品種	620 (100%)	540 (100%)	前橋市 甘楽富岡	30	30	40
	茨城県	11 (98%)	アヴァランチェ サムライ ローテローゼ パレオ アイリオン 他	550	450	つくば市 筑西市 他	40	40	20
	大分県	9 (100%)	Mシリーズ Jシリーズ 他	440 (100%)	150 (100%)	九重飯田 玖珠九重	30	30	40

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	<p>・生育、開花は、燃油価格高騰の影響により、加温温度を低めに設定している圃場が見られることから、例年よりも遅れている。4月の出荷量は、生育がやや遅れていることと、作付面積が前年よりやや少なくなっていることから、前年の90%程度と見込まれる。</p> <p>・病害虫の発生は少なく、切り花品質は良好である。</p>	<p>現状 主産地の愛知、山形、長野、茨城は気温も上昇したことから潤沢な入荷となった。一部小売、彼岸需要を含めて引き合いはあったものの、相場は低調に推移した。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 愛知、茨城は微増し、山形、長野は大きく増加してくる見込み。各色、各等級潤沢入荷となる見込み。 950,000本 @50</p> <p>FAJ 引き続き、長野、山形、愛知より入荷。出荷数量増加。まとまった入荷が続く。</p> <p>東日本板橋花き 愛知、青森、福島の出荷。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き 数量はそれほど変わらず推移。相場は落ち着く。</p>
トルコギキョウ	<p>生育順調、4月に向けて出荷が多くなる見込み。特に、4月下旬、GWIに向かって出荷量が増える見込み。</p> <p>筑西市の産地は4月中下旬から出荷開始の見込み。</p> <p>4月より豊後高田、下旬には臼杵からの出荷が開始となる。ともに遅れ気味、出始めはすくないが徐々に増加の見込み。</p> <p>上旬は日量250~300ケース程度、中旬以降は100~200ケース程度になる見込み。</p>	<p>現状 国産の上位等級で静岡中心にまとまってきているものの全体を見ると現状まだ少ない状況である。今後の年度末需要に対応できるよう国産の良いものを集めながら、引き続き台湾産で数量を入れていく流れ。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 国産の上位等級に関しては相対でもセリ場でも堅調な推移をする見込み。台湾産に関しては出荷は安定しているものの、品質面がやや低下してきているので販売が難しい状況になっている。</p> <p>FAJ 輸入は減少し、国産主体の出荷。引き合いあり、堅調な相場展開となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 天候次第で国産は増減する。輸入は徐々に減少傾向。</p> <p>世田谷花き 婚礼アイテムが、スイートピーからトルコギキョウに変わり、堅調。</p>
バラ	<p>厳しい冬であったが、春らしい日が多くなり、日差しも強く、日照時間も多いため出荷は増加傾向。出荷量・品質とも例年並みの見込み。</p> <p>例年より出荷量は少なめの見込み。</p> <p>上位から下位までバランス良い出荷を見込む。気温上昇に伴って下旬にかけて出荷量は増加の見通し。</p>	<p>現状 全国的な気温上昇に伴い、各産地出荷量増となっている。急激に増えてきたため、相場下げているが、週末を中心に送別需要等により動きがでてきている。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 暖地を中心に無加温ハウス等があり、出荷は増加傾向。輸入に関しては、4月に入ると出荷量が落ち着いてくる見込み。</p> <p>FAJ 全国的に出荷量増加し、潤沢な入荷が予想される。</p> <p>東日本板橋花き 需要が落ち着くため、厳しい販売が予想される。</p> <p>世田谷花き 高冷地産も出荷始まり、入荷量増の見込み。単価前年並み。</p>